
ありがとうって、言ってください。

佐伯彩瑠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとうございます、言っして下さい。

【Nコード】

N5377Q

【作者名】

佐伯彩瑠

【あらすじ】

「誕生日を祝いたいのに、素直になれない自分が嫌い……………」
「そんな男性目線の短編。」

「5年たったら……」

ありがとうって、言っして下さい。」

君がそう言うてから、もう5年が過ぎた。

今までは、触れてこなかったこの日。君が生まれた日というのに俺は、祝ってこなかったね。

言葉が足りなくて、言葉が言えなくて、君の側に居てやれなくて。今更「ずっと一緒にいる」なんて見飽きた嘘は言わないけれど、どうか笑っていて欲しいんだ。

今日は昨日みたいに晴れてないけど、ほら、少しくらいは星が見えるでしょ？

日付が変わって君を泣かせる前に、約束の言葉を言いたいから、走って君の元に行くよ。

あの時、5年前の今日、どうして君があんなこと言ったのかは知らないけれど、俺は少し嬉しかったんだ。

今度は俺が言っても良いかな、「5年たったら、ありがとうって、言っして下さい」と。

そうすれば、あと5年も君を繋ぎ留められる。

ああ、俺ってば弱虫。君の傍に居れないなんて考えてる。本当は閑寂な夜に怯えてる。

もうすぐで着く。

まだタイムリミットまで1時間。傍で甘い時間を誓願するまで5分。ボタンと大声上げてドアが閉まったら、君はきつと吃驚した顔でこっちを見る。

「どうしたの？」

あからさまに涙の痕をアクセサリーにして、何でも無いかのように笑う。

「間に合ったよ」

って俺は至極優しく言ってあげるんだ。

そしたら君は堰を切ったように泣き出して、俺は恥ずかしさに顔を赤らめながら言ってあげよう。

「ありがとう」

ただそれだけを。だってそれだけで伝わるから。

祝うのは、この日が終わる直前で良い。良いムードで、光の残照の中で、

「おめでとう」

と言う。

一生で何度も言わないから聞いてくれ。真面目に言うのは恥ずかし

いい、君にしか言えない。だから一度だけ、勇気を出して言っね。

5年たつたら……

ありがとうって、言って下さい。

君は泣き腫らした不細工な笑顔で、「分かった」って。

俺は岩漿がんしょうの如く燃え上がる顔を余所に、

キラじゃないけど「愛してる」なんて言ってみた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5377q/>

ありがとうございます、言って下さい。

2011年1月31日09時53分発行